



正岡 千博 議員

### ため池の保全に関して

#### 問

- 一・池敷所有者が国・伊予市・大字・個人等ある中で、保全に関する問題はどうか。
- 二・地区別のため池数と改修経過・改修率について
- 三・改修の地元負担の軽減は。
- 四・土取場、土捨場の確保は。
- 五・新工法とはどんな工法か。
- 六・全国池サミットを開催しはどうか。

#### 答 中村市長

- 一・池関係者の高齢化、受益農地の減少が懸念される中で、池所有者、管理者と連携を密にして、計画的に改修工事に取り組むなど適正な管理を促し、安全の確保に努めたい。
- 三・団体営ため池等整備事業では国庫補助金に20%の継ぎ

足しがあるが、今年度からは新規改修工事は15%に引下げられていく。当面、引下げ分は、市が負担するが、極めて厳しい財政事情の中で、今後受益者の負担のあり方について見直しも考えていかなければならないと考えている。

なお、農地防災・保全等のため池改修計画を立てること、中山間地域総合整備、中山間地域総合農地防災事業といった公立の補助事業に取り組むことも可能であり、地元負担軽減につながるので、地元と連携を密にして検討したい。

#### 答

#### 産業建設部長

- 六・全国規模のため池フォーラムを開催しており、今年度は十月に新潟市、来年度は大阪府で開催予定である。当市での開催は、会場、宿泊施設の問題で難しいが、愛媛県で開催される際、現地研修の候補地として名乗りを上げることは可能かと考えている。
- 二・伊予市全体では、ため池数が百七十五カ所、その内全面改修済が五十九カ所、改修率34%である。
- 四・経費の節減と円滑な工事実施を図るため、ため池周辺

で土取場、土捨場の候補地を地元で探していただくのが一般的になってきているので、引き続きお願いしたい。

五・開削による前刃金工法が確立されており、信頼性も高く実績のある一般的な工法となっている。

しかし、刃金土の確保が困難な場合、シート工法・グラフト工法・リサイクル工法等があるが、採用の際は、経済性等精査する必要があると考えている。



改修された稲荷八幡池

### 伊予農業高校と伊予市との連携・共生等について

#### 問

- 一・伊予農高と地域の連携は。
- 二・伊予地区ひまわりプロジェクトについて
- 三・バイオマスペレット普及啓発事業について

#### 答

#### 中村市長

- 四・アドミツションオフィス（総合評価）方式で、地域マネージャーを。
- 五・近隣市町が連携して農業高校を支援しては。

一・伊予農高生を住民自治組織の構成員として各種団体と同じように位置付けることは現状では難しいのではないかとと思われるが、学校と地域住民との交流、連携は地域づくりにとって重要であるので、可能な範囲で様々な可能性を検討していく必要があるのではないかと考える。行政としては、地域振興につながる事業分野での連携ができるのであれば支援を行うことはやぶさかではない。

四・伊予農高では、農業高等学校の充実と愛媛大学農学部への進学を拡大を進めており、今回の特別コースもこれにこたえるものとなっている。

市も、次代の農業を担う人材の確保、育成、とりわけ地域農業に貢献いただけるリーダーの育成は急務となっており、卒業後の就業支援は県の就農支援資金制度の利用が可能であるが、大学在学中の支

援は県就農担当課との連携を図り、検討を進めたい。

五・農業高校農業振興協議会の設立は、県農政普及課伊予農業指導班等の御指導を仰ぎながら関係市町と可能かどうかを含めて検討したい。

#### 答

#### 産業建設部長

二・市ではひまわりプロジェクトに、ぐんちゅう保育所の園児や郡中小学校の児童が校外活動の一環としてヒマワリの定植、管理及びヒマワリ祭りのイベントに参加等を進めてきた。

三・バイオマスペレット普及啓発事業として、伊予農高の豚ふんを発酵させた堆肥ペレットの普及啓発事業が採択された。

同校ではこの堆肥ペレットの有効利用を検討しており、バイオマス資源の普及啓発、利用促進を図るため、関係各課と調整し、市公施設への利用を検討したい。



伊予農高アクションプラン